

編集後記

風薫る五月、入局した新人眼科医は診療業務に慣れ、日々の診療技術の進歩を指導医とともに実感している頃ではないでしょうか。また秋の学会デビューに向け、症例報告や臨床研究に忙しい若手眼科医も多いことと思います。

さて今月号の特集は DSAEK, DMEK と略される角膜内皮移植です。無虹彩、無水晶体、無硝子体眼では角膜内皮移植片が術後に網膜上に落下していることがあり、その対策として薄い移植片を縫い付ける手術が行われているそうです。またハイリスクハイリターンの手術である DMEK の詳細も解説されており、網膜専門の人間にとってはたいへんに驚かされる角膜移植手術の進歩です。

また総説で取り上げられたフェムトセカンドレーザー白内障手術は、学会などで何度か目にしたことがありますが、具体的な手技がよくわかりました。眼科で使用するレーザーは光凝固レーザー、YAG レーザー、エキシマレーザーで、学生の講義の際には、それぞれ「焦がす」レーザー、「切る」レーザー、「削る」レーザーと説明してきました。第4のレーザーであるフェムトセカンドレーザーは、数 μm の空隙を連続して作成することで、LASIK のフラップ作成や白内障手術の角膜輪部切開を、ブレードレスで行うことができます。

角膜組織内部に自由な切開面を作成することができるので「くりぬく」レーザーと表現するのがよいかもしれません。

機器・薬剤紹介で紹介されている Optos California は、Optos の先行機種である Daytona, 200Tx とともに 200° の超広角で眼底画像を撮像可能な走査型レーザー検眼鏡です。私たちの施設でも遅ればせながら本年ははじめから California が導入され、その臨床での有用性には驚かされています。California では IA 画像が撮影できるようになったために、記事では Vogt-小柳-原田病と中心性漿液性脈絡網膜炎、加齢黄斑変性での利用が紹介されていますが、日常診療で最も多く利用しているのは糖尿病網膜症と網膜静脈閉塞症での、特にレーザー光凝固治療の記録でしょう。フルオレセイン蛍光眼底造影 (FA) 写真での無血管野 (NPA) を確認してその部位を凝固し、治療後正しく凝固できていたかどうか確認するのに、Optos の広角カラー眼底写真と FA 写真はとても便利で重宝しています。ただし、すべての眼底疾患を Optos で撮影する傾向が強まっていることは問題です。Optos のカラー眼底写真では正確な色あいが得られないので、黄斑疾患の眼底写真などは通常の眼底カメラで撮影するよう医局員に指導しています。(飯島裕幸・記)

編集：飯島裕幸・富田剛司・坪田一男・後藤 浩・雑賀司珠也・門之園一明・三村 治
編集顧問：所 敬・小口芳久・白井正彦・澤 充・谷原秀信・岸 章治

「眼科」 第59巻 第5号 5月号

2017年5月5日発行（毎月1回5日発行）
定価（本体 2,700 円＋税）

年間講読料金 定価（本体 42,100 円＋税）
〔年間13冊（臨時増刊号、増大号を含む）の誌代〕
〔年間予約購読者に限り送料無料〕

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14

Tel 03 (3811) 7165〔編集室直通〕

Tel 03 (3811) 7184〔営業部直通〕

FAX 03 (3813) 0288

ホームページ <http://www.kanehara-shuppan.co.jp/>

雑誌部 振替口座 東京 00130-1-191269

印刷所 横山印刷株式会社 Tel 03 (3622) 6161

広告申込先 福田商店 Tel 06 (6941) 5600

・本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権（送信可能化権を含む）は金原出版株式会社が保有します。

・JCOPY<(社)出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、(社)出版者著作権管理機構（電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, e-mail:info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。